

第2回 MURCアカデミー(Mアカ)開催報告

【子どもの貧困について考える】

開催日時	2016年11月19日(土) 15:30-18:00 (終了後、希望者で懇親会も開催)	
会場	東京19F Annex	
スピーカー	経済政策部 副主任研究員 小林庸平 日本財団 プロジェクトコーディネーター 花岡隼人 様 戸田市教育委員会 教育政策室長 渡部 剛士 様	【参加学生】 大学生・大学院生22名

REPORT

日本財団子どもの貧困対策チームが、「子どもの貧困の放置で生まれる社会的損失は40兆円」という、衝撃的な推計結果を公表しています。海外の話ではなく、ここ日本における現実の話です。本調査研究には、当社の小林副主任研究員(以下、小林副主任)が中心メンバーとして関わっています。中心メンバー自らが推計結果のポイントや意義をわかりやすく解説してくれることも魅力的だったのですが、「そもそもなぜ、小林副主任は本調査研究に参画することになったのか」といった子どもの貧困解決に寄せる「想い」も学生たちに熱く語りかけてくれました。

ゲストスピーカーには、小林副主任と同様に子どもの貧困解決に明確な想いと志をもって取り組まれているお二人をお招きしました。小林副主任と共に本調査研究で汗を流した日本財団の花岡さんには、子どもの貧困解決における日本財団の役割や、解決に向けて現在進行しているアクション“家でも学校でもない「第三の居場所」づくりプロジェクト”をご紹介頂きました。その第一号拠点は戸田市に設置されています。プロジェクトを推進している戸田市教育委員会の渡部さんには拠点の整備状況、行政の役割、これらの取り組みへの期待といったことをご紹介頂きました。



後半のディスカッションでは、小林副主任から学生の皆さんへ『日本の子どもの貧困問題は解決すべきことなのか?』という本質的な問いが投げ掛けられ、当社の若手社員がファシリテーターとなって熱い議論を展開しました。

子どもの貧困解決の裏側に官公民の連携があることを知る学生

若手社員と学生による熱のこもったディスカッション



学生の質問に熱心に答える小林副主任

<参加した学生の声>

- ・書籍の執筆者がスピーカーということが素晴らしく、とてもわかりやすかった。
- ・官公民3者それぞれの立場からのアプローチ、生の声を聴くことで満足です。
- ・子どもの貧困解決におけるシンクタンクの役割を知ることができた。
- ・スピーカーからのインプットの後にディスカッションですぐにアウトプットに移るのがよかった。
- ・教えられるのではなく、一緒に考えるという場が学生としては嬉しく、大変学びになった。
- ・専門、非専門の方が集まることで活発な意見交換ができた。
- ・参加者内のアイスブレイクが最初にあった方がよかった。
- ・もう少し議論の時間があるとよかった。